

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.39

20
th

10
th

大分市植田近郊 (2026年2月撮影)



ひとに笑顔を ちいきに“愛”を
社会医療法人 三愛会

社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」 Vol.39 (2026年4月1日発行)
発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター
社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com
表紙の写真について/2026年に大分三愛メディカルセンターは移転改称20周年を、三愛総合健診センターは開設10周年を迎えます。



「DXでラクになる」の、
先にあるもの。

社会医療法人三愛会 経営管理部 情報システム課スタッフ

全部パソコンが、ロボットが、**AI** が、やってくれる。

そう言ってしまうと、単にラクをしているように感じるかもしれない。

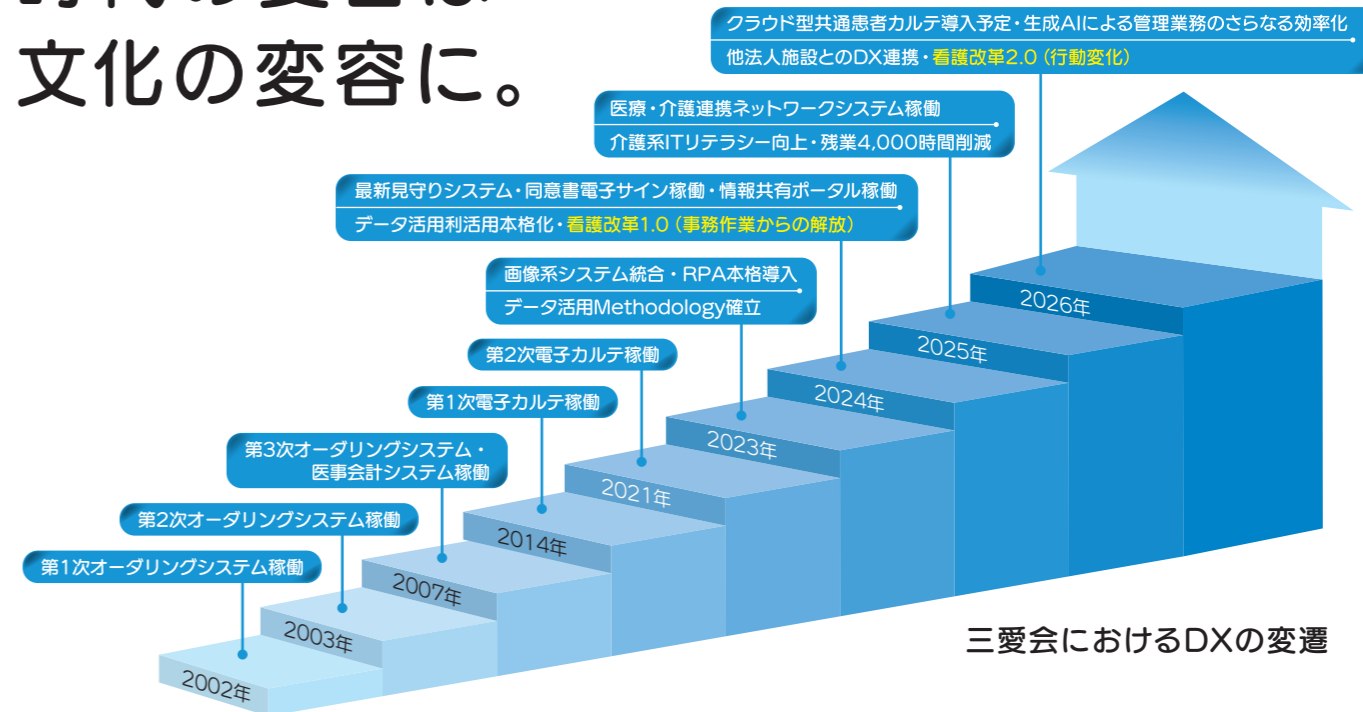
しかしこれは、医師や看護師、介護士などの各職種が、
本来の専門的知識・技術をふんだんに発揮するための手段となる。

↓
result

全力で患者・利用者に向き合える、
効率的かつ負担の少ない環境を確保する。



時代の変容は 文化の変容に。



医療介護 **DX** = digital transformation 患者 幸福度UP

当たり前に必要なであった業務が、デジタルの力によって縮小していく。



本 誌では、「医療介護」と「DX」が紐づいたその効果を紹介します。

一 一般の患者・利用者にはあまり直接的に感じないことだが、社会医療法人三愛会は、県内でもDXを積極的に推進している医療法人といえる。県内外の法人から多くの見学や取材依頼があり、ICT企業との連携も多い。それが、どう患者・利用者、ひいては地域の役に立つのだろうか？

特 に目覚ましい発展があったのは、デジタル化の大きな波であろう。紙のカルテから電子カルテに移行し、まだ10数年というにも、にわかに信じがたい感覚だが、インターネットやスマートフォンの普及に後押しされ、すでに医療介護現場でもDX化は必要な取り組みだ。

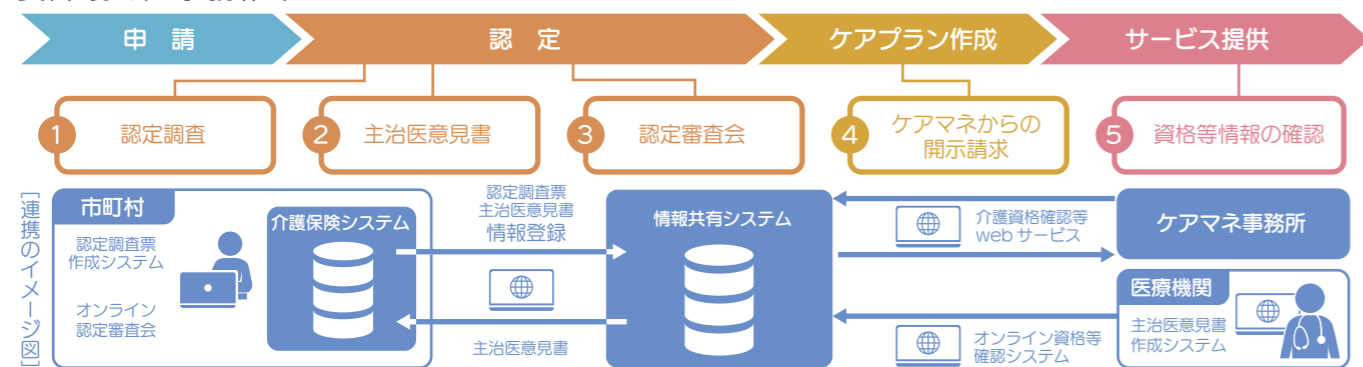
2 026年は、三愛病院が大分三愛メディカルセンターに移転改称して20年。さらに三愛総合健診センターを開業して10年の節目となる。昨年、法人55周年を謳ったばかりだが、この20数年でも医療介護業界には多くの変化があった。



介護の“必要”に、スピードで応える。

介護+DX

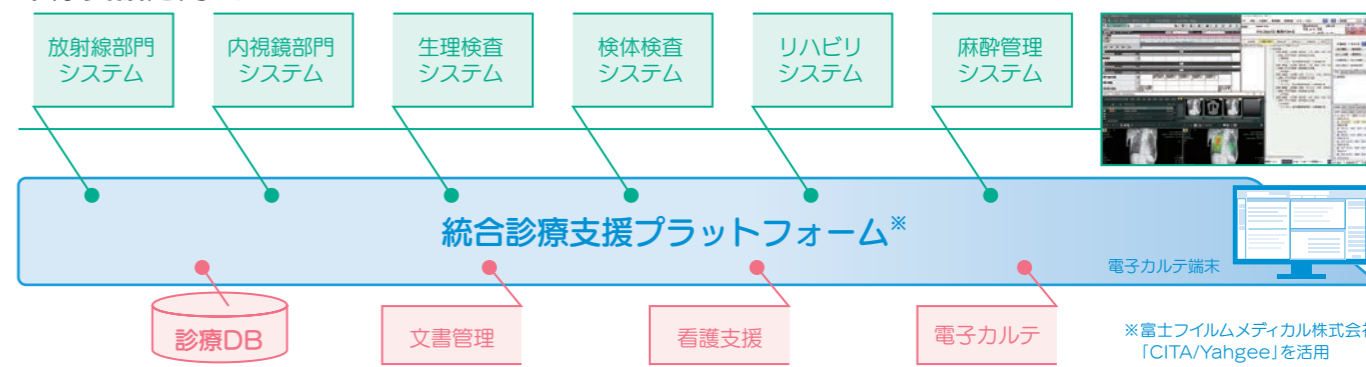
要介護認定事務作業のDXイメージ



“手厚い看護”と“チーム医療充実”の両立。

看護+DX

診療支援運用イメージ



高 齢化の進行に、限られる医療介護人材への対応に、進まないわけにはいかない道となっている。

病 院業務に限らず、社会医療法人三愛会では介護事業所でもデジタル化に目を向けている。たとえば行政とタッグを組み、「要介護認定」の業務をすべてデジタル化する取り組みをモデル事業として実施した。高齢化により、要介護認定は申請件数が増加の一途を辿っている。対応を急がれるケースも少なくはない。申請から認定完了までの期間を短縮するため、病院の手配（主治医意見書の送付）やケアマネジャーの介護プラン作成・情報開示請求などをオンライン化する。これまでは介護保険被保険者証などを職員が本人から預かり、自治体に持参し、手配してきた。それが基本的にはパソコン1台で済むため、紙の書類の削減から、人員の物理的負担の軽減にもつながる。平均で35日前後の時間がかかっていた申請から認定までの時間を、30日以内にするのが当面の目標だ。

看 護師たちも、病棟ごとに別々のデータを制作し、患者情報を手入力し、さらに印刷して手書き記入後、別のデータにまた打ち替える...といった、非常に非効率で時間のかかる作業を行っていた。2021年に採用したシステムでは、患者の診療情報を一画面で表示できる、いわゆる一元化する仕組みを実現。看護師に限らず、診療に関わるすべての職種スタッフが情報を正確に素早く共有でき、全員が相互に連携・保管し合うチーム医療を推進。「チーム医療」とはよくいわれるが、その根拠となる多職種連携の実績をスムーズに示すことができた。

時 代が進むにつれ、医療従事者が「やること」は増え続けている。それにより記録・報告業務などの「事務仕事」に追われてしまう現実がある。特に大分三愛メディカルセンターは、二次救急病院として日々救急搬送要請がよせられるため、迅速かつ柔軟なベッドコントロール（入退院患者の手配）が要求される。事務作業の増加は、本来最も重要であるはずの「患者と向き合う時間」をひっ迫してしまうのだ。

DXは伝播していき、
アライアンスという発想へ。



外部医療機関でのDXに関する講演会



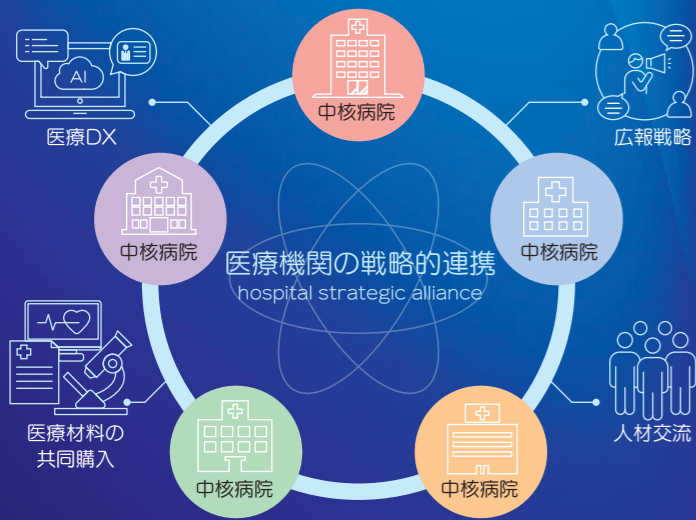
webでの大規模DX講演会



行政によるDXに関する取材対応

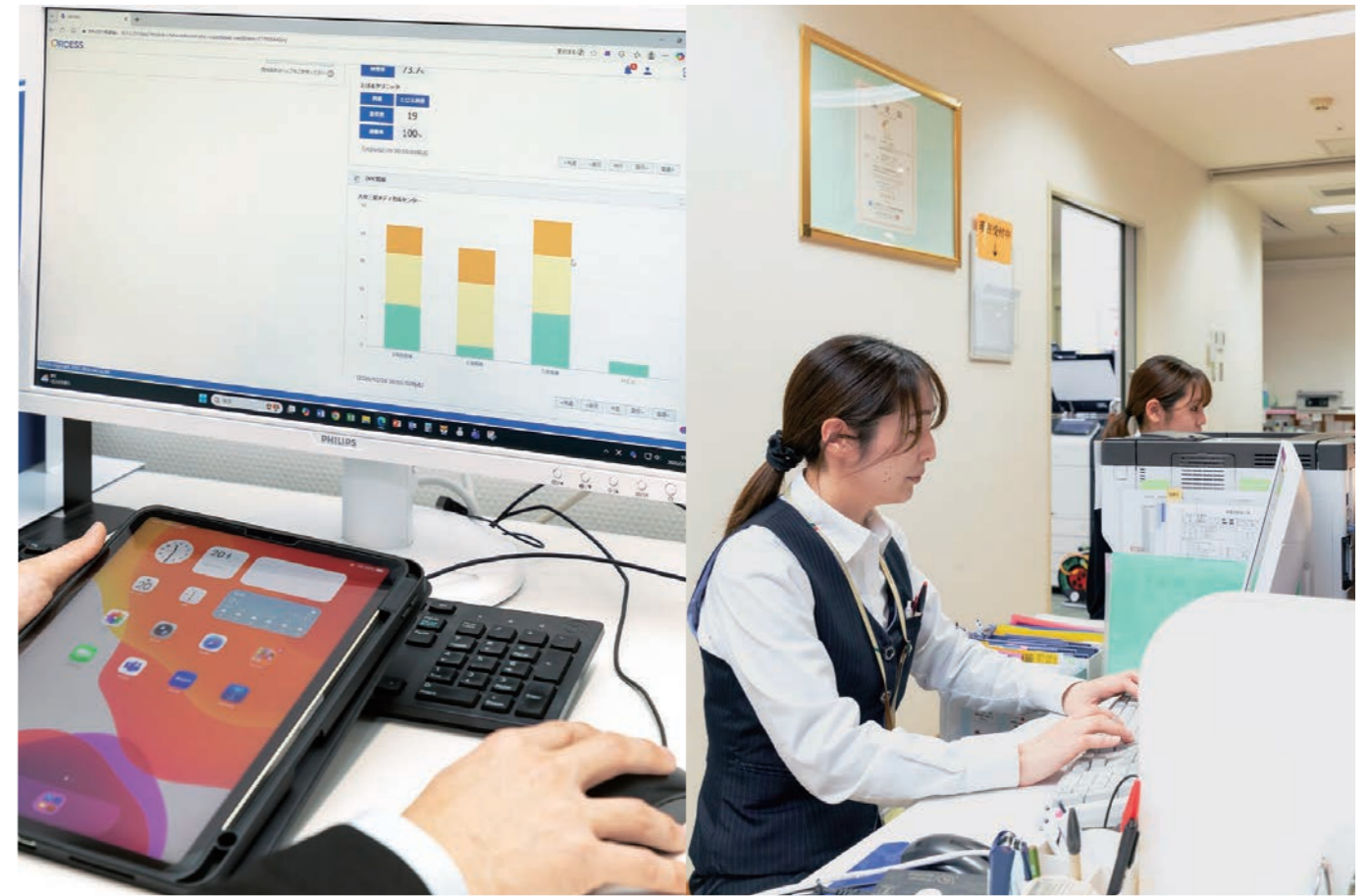


DX関連企業との提携契約



三愛会の医療DX・医療材料購入・広報の各セクションが連携を強めることで、地域医療全体へのメリットは広がっていく(写真左から・広報担当、医療DX担当、医療材料担当)。

2026年4月現在、社会医療法人三愛会の情報システム課員は7名。医療機関の規模でいえば、多い方だ。しかしその業務は多岐にわたり、なかには全国各地を飛びまわる課員もいる。県内外の医療機関へ取り組みを紹介し、DX改革を推奨し、サポートする。アライアンス(同盟・提携)という考え方のもとに支え合い、お互いに相乗効果を狙っていく。成功というよい状況下にある三愛会の業務DXを他院へ展開し、データ連携などを進め、地域医療という業界全体にメリットをもたらそうと模索している。



作業時間削減 4,105.6 時間！ 達成！ 限りある医療資源、持続可能の追求

前述の通り、医療介護の実務には、手書きや再入力を繰り返すような非効率となってしまう業務が多々あり、それを完全にゼロにするというのも無理があるのが現状だ。それでも、「超少子超高齢化」といわれ始めてすでに数年が経ち、「人手」という意味を含めた医療資源にも限界がある。コロナ禍でよく聞いた「ひっ迫」という言葉が、通常の業務の中でも見え隠れしつつある。であれば、日々謳っている「患者中心の医療」「チーム医療」「相手に向き合う」「職員の幸せも追求」といった言葉が薄れることになりかねない。

医療介護の仕事は大変だというのがイメージは強い。どの業界においても人材不足が叫ばれる中、持続可能な「地域医療を支える」理念を追求するのであれば、職員にとって効率的かつ負担の少ない環境は不可欠だ。それが結果的に、患者・利用者へのサービス向上に確実に直結している。

たえば診療報酬に関する算定業務。これまでは莫大な時間を要しての入力・確認業務が職員の時間を吸い取ってきた。

部門別月間業務削減時間			
部門	削減時間	部門	削減時間
健診センター	147.7	検査部	23.0
地域連携センター	356.8	栄養課	5.0
看護部	1,097.4	透析センター	17.0
ER(救急部)	93.3	医局・医師事務	77.7
診療管理支援課(医事)	759.7	診療情報管理室	45.0
薬剤部	55.2	経営管理部	54.0
リハビリ部	47.0	共通	1,326.8

大分三愛メディカルセンターでは、「RPA」といういわゆるロボットによる自動化を実現。このシステムを中心に、各部門の作業時間は4,105.6時間(月間)となり、全国的に見ても圧倒的な成功事例となっている。

DX用語集

医療の世界はアルファベットの略語だらけ。DXにおいても、「実はよくわかってないけど」と思われていそうな言葉を紹介します。

IoT Internet of Things

これまでインターネットに接続されていなかったさまざまなモノ(住宅・建物、車、家電製品、電子機器など)が、ネットワークを通じて相互に情報交換する仕組み。

電子サイン (電子署名・電子印鑑)

従来の紙文書への手書き署名や捺印の代わりに、電子データ上で本人同意・承認を示す技術。パソコンやスマホでWeb画面上にサインしたり、電子印鑑を押印したりする。ペーパーレス化や契約手続きの迅速化が可能。

RPA Robotic Process Automation

パソコンで行う定型業務を、ソフトウェアのロボットが人の代わりに自動化して行う技術。データ入力、転記、情報収集、帳票作成など、ルール化された繰り返し作業を24時間高速・正確に処理し、業務効率化する。

SQL Structured Query Language

データを表形式で管理し、大量のデータから「何が欲しいか」を指定して高速に対応できる。膨大なデータから必要なものを数秒で抽出できる。

マクロ Macro

WordやExcelなどのパソコンアプリケーションで行う一連の操作手順を記録・プログラムし、ボタン一つで自動的に実行できる機能。定型業務の効率化や、手作業によるミス削減に活用。特にExcelでは複雑なデータ処理や帳票作成を自動化するツールとしてよく使用される。

IT Information Technology

情報技術のこと。IT化とは、パソコン、インターネット、ソフトウェア、データベースなどを活用し、人の手で行っていたアナログ業務をデジタル技術に置き換えること。

DX Digital Transformation

デジタルトランスフォーメーション。AIやIoT、ビッグデータなどのデジタル技術を活用し、ビジネスモデルや業務プロセス、組織風土を根本的に変革すること。IT化を超え、価値を創出し、生活やビジネスをより良く変えること。「DT」と略さないのは、英語圏では「Trans」を「X」と略する習慣があるためである。

ICT Information and Communication Technology

コンピュータ技術やネットワーク技術を活用し、情報の処理・保存・共有・コミュニケーションを効率化する技術の総称。

オーダリングシステム Ordering system

医師が行う処方や検査などの指示を電子化し、各部署へ迅速かつ正確に伝達するためのシステム。これにより、指示の伝達が効率化され、ヒューマンエラーの減少や業務の効率化につながる。



Patient Flow Management

進む、PFMの取り組み



PFMの理想イメージ



大分三愛メディカルセンターの検討・課題点

- 外来での入院説明の効率化
- 麻酔科医師の説明の効率化
- 同一書等書類の統一・簡略化
- 全体の業務効率化・スムーズ化
- 各職種との業務分担
- 業務のDX化

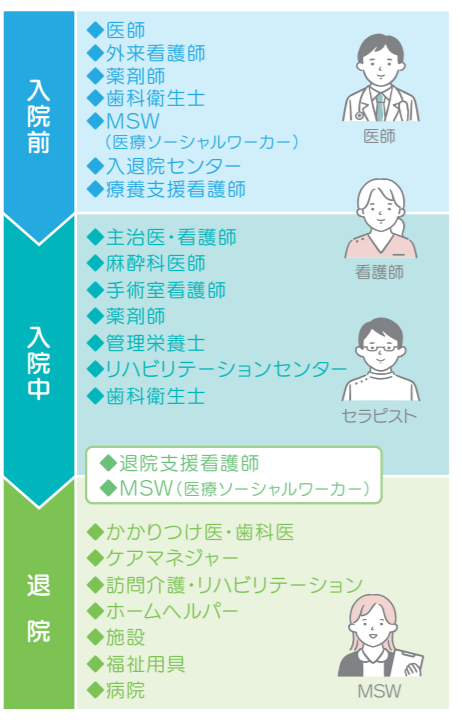
患者さんのメリット

待ち時間の短縮/入院までの来院は原則1回に/「何度も来院する、何度も同じ説明を聞く」の改善

職員のメリット

負担軽減/業務効率化

病院内外の各職種スタッフが治療・退院までスムーズな流れをつくる。



DXも大きな貢献をしている取り組みを紹介する。大分三愛メディカルセンターでは2022年頃よりPFM (Patient Flow Management) の構築を進め、日々アップデートしている。PFMとは、入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手することを目的とする入院の管理手法。早期から病院内の各職種スタッフが総出で患者さんに関わり、治療・退院までよりスムーズな流れをつくる。

具体的には、入院予定の患者について情報をあらかじめ把握し、入院を含め、病床の管理の効率性を高める。それに付随して、入院のことのみならず、外来の動きや職員の業務内容にまで幅は広がっている。最終的には、院内のほとんどの部署において、業務を効率化・簡便化し、ムタを省き、職員にとっても患者さんにとっても大きなメリットになる。2025年初の本格稼働に至るまで、また現在も医局長の刈茅崇を中心として、複数の医師、また、ほぼすべての部署と会議を重ね、さまざまな角度から業務の見直しを進めている。こういった取り組みにも当然、DXによる恩恵は大きなものがある。

〔 社会医療法人 三愛会 〕

大分三愛メディカルセンター・三愛総合健診センター

所在地 〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
TEL 097-541-1311
FAX 097-541-5218
病床数 190床
診療科 脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、
運動器センター、救急外傷センター(ER)、人工透析センター、
画像診断センター、リハビリテーションセンター、
救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・
大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科(人工透析)・
形成外科・内科・総合診療科・消化器内科・呼吸器内科・
循環器内科・糖尿病内分泌内科・リウマチ科・神経内科・
放射線科・リハビリテーション科・病理診断科・麻酔科

専門外来受付 8:15~11:00/13:30~16:00
※土曜日は、新患の方のみ 8:15~10:00となります。
※診療開始時間は診療科によって異なります。

休診日 日曜日・祝日・土曜日午後
※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。

認定施設 二次救急指定病院、
大分DMAT指定病院、DPC対象病院、
日本医療機能評価機構認定病院

HPアドレス san-ai-group.org



介護保険相談センター さんあい

(大分三愛メディカルセンター内)

TEL 097-542-7409
サービス 居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション

(大分三愛メディカルセンター内)

TEL 097-541-7007
サービス 訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地 〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
TEL 097-588-1311
診療科目 外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科
病床数 19床
サービス 通所リハビリテーション(デイケア)、
介護保険相談センター

HPアドレス notsuharu-san-ai.com/



三愛呼吸器クリニック

所在地 〒870-1143 大分市田尻419-1
TEL 097-541-2588
診療科目 呼吸器内科・内科
サービス 呼吸リハビリテーション

HPアドレス kokyu-oita.com



たばるクリニック

所在地 〒870-1154 大分市大字田原936番地1の1
TEL 097-541-2345
病床数 19床
診療科目 外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
整形外科
サービス 訪問看護ステーション

HPアドレス tabaru-san-ai.com



介護老人保健施設 たばる (たばるクリニック併設)

TEL 097-542-4139
サービス 入所サービス、
短期入所療養介護(ショートステイ)、
通所リハビリテーション(デイケア)

HPアドレス tabaru-san-ai.com/rouken



グループホームたばる (たばるクリニック併設)

TEL 097-541-5298
サービス 入所サービス
HPアドレス tabaru-san-ai.com/grouphome



介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地 〒870-1151 大分市大字市字大坪11番地の2
TEL 097-541-6655
サービス 入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、
通所リハビリテーション(デイケア)、
訪問リハビリテーション

HPアドレス wasada-care-center.com



有料老人ホーム さんさん

所在地 〒870-1151 大分市大字市566番地の3
TEL 097-529-5580
サービス 住宅型有料老人ホーム
(三愛学童「アイ・ステップ」併設)

さんあいヘルパーステーション

(有料老人ホームさんさん内)
TEL 097-529-5582
サービス 訪問介護、介護予防訪問介護

〔 社会福祉法人 三愛会 〕

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地 〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL 097-567-8822



天領ガーデン・ふれあい館

所在地 〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
TEL 097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン

(天領ガーデン・ふれあい館内)
TEL 097-574-7500

“地域とともに”を、これからも。

大分三愛メディカルセンターは移転改称20周年、
三愛総合健診センターは開設10周年を迎えます。

診療改革元年と位置づけた2006年、地域完結型医療の一翼を担うため、
「三愛病院」から「大分三愛メディカルセンター」へと改称し、新築移転を果たす。
さらに「大分三愛メディカルセンター」では、“健診”による疾患の早期発見・早期治療が一つの鍵になると考え、
2016年に病院併設型の健診施設「三愛総合健診センター」を開設した。

大分三愛メディカルセンター移転改称後20年の歩み(法人沿革)

- ◆2006.6 現在地へ病院を新築移転
「大分三愛メディカルセンター」へ改称
院長 野中敦
- ◆2007.5 日本医療機能評価機構により
病院機能評価(Ver.5.0)認定
- ◆2008.2 「大分DMAT」および「日本DMAT」
指定病院として認定
- ◆2008.10 「有料老人ホームさんさん」「さんあいヘル
パーステーション」開設
- ◆2009.4 DPC算定病院として認可
DPC請求開始
- ◆2009.6 森義顕 院長就任
- ◆2009.11 救急医療・災害医療要件を満たし
大分県より社会医療法人認可
法人名を「社会医療法人三愛会」へ変更
- ◆2010.2 医療安全管理室開設
- ◆2012.5 日本医療機能評価機構により病院機能
評価(Ver.6.0)認定更新
- ◆2012.6 HCU(ハイケアユニット)開設
- ◆2013.9 脳卒中センター開設
- ◆2014.7 電子カルテシステム運用開始
- ◆2015.10 三島康典 理事長就任
半澤一邦 顧問就任
- ◆2015.11 病棟再編により地域包括ケア病棟開設
HCU増床
- ◆2016.5 消化器病・内視鏡センター開設
- ◆2016.6 三愛総合健診センター開設
- ◆2017.4 「たばるクリニック」「介護老人保たばる」
「グループホームたばる」開設
- ◆2017.7 日本医療機能評価機構により病院機能
評価(3rd Generation Ver.1)認定更新
- ◆2019.3 三愛呼吸器クリニック開設
- ◆2019.6 190床へ増床
- ◆2019.6 法人設立50周年
- ◆2024.6 たばるクリニック 病棟運営再開
- ◆2024.7 中山尚登 院長就任

